

研究課題

豊かな人間性を育む カリキュラム・マネジメントと 校長の在り方



I 趣 旨

グローバル化が進む現在、様々な価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きていくことや、科学技術の発展による社会・経済の変化の中で、人々の幸福や持続可能な社会の実現を図ることが大切である。そのような中、子どもたちには自らを律しつつ、自己を確立し、他人を思いやる心や、感動する心をもつ豊かな人間性を備えた人として育ち、自分らしく主体的に生きていける教育を推進していくことが求められている。その基盤となるのが、人権教育であり、道徳教育である。

人権教育については子どもたちに人間と生命の価値を自覚し尊重することや、人と調和してともに生きること、人の痛みや思いに共感することなどを教育活動全般の中で育んでいく必要がある。また、道徳教育については、自立した一人の人間として、人生を他者と共により良く生きる人格を形成することを目指し、子どもたちが夢や希望をもって未来を拓き、人間としてより良く生きようとする力が育成されるよう指導の充実を図らなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、道徳教育や人権教育などの心の教育に関わる教育実践を推進するとともに、家庭や地域等との連携・協働した取組を実現し、人間性豊かな日本人を育成するためのカリキュラム・マネジメントの具体的方策と成果を明らかにする。

II 研究発表および討議

1 研究発表

豊かな人間性を育む

カリキュラム・マネジメントと校長の在り方

根室地区 中標津町立中標津小学校 河原 宣孝

2 研究の概要

(1) 根室地区の研究

平成30年度より、根室地区校長会では「新たな社会に生き抜く人権感覚の育成」と「豊かな心を育成する

教育課程の編成・実施・評価・改善」を研究テーマとし、課題解決のため、教員意識の改革とより効果的な教育活動への変容を目指す方策について協議を行ってきた。その協議の中では、教員に対してはA ミッションをもたせたり、B 明確な役割や指導的な立場を設定したりすること、また、教育活動についてはC 学校行事のねらいと、道徳の内容項目を関連付けた指導計画を立てることやD 育てたい力が明確になっている教育活動の構築、E 地域素材を活用するためのリサーチなどが方策として挙げられた。

今後はさらに、教育活動をつなぐ教員のデザイン力の向上と、教科横断的な視点に立った資質能力の育成の二つについて、重点的に取り組むことが確認されている。

(2) 調査研究

【質問項目1】「豊かな人間を育む教育を行っているか。」

・行っている 100%

【質問項目2】「人権教育を行っているか。」

・行っている 94%

【質問項目3】人権教育の年間計画を作成しているか。

・作成している 61%

具体的な実践例も53%の学校が記載しており、外部講師を活用した人権教室や人権の花運動が多く挙げられている。

【質問項目4】「道徳の年間計画を作成しているか。」

・作成している 100%

道徳に関しての実践例の記入は12%にとどまったが、「隠れたカリキュラム」として機能していることや教科横断的に指導しているために具体例を挙げにくかったという理由が考えられる。

(3) 課題解決に向けた方策

上記の調査を踏まえ、これまで本分科会で話題にされてきた課題の解決につながる方策として3点確認された。

① 学級経営案を効果的に活用すること（上記A・C・Dに関わって）

学級経営案に、学校行事の中で子どもたちに育てたい力や道徳で身に付けさせたい価値項目等を反映

させる事により、学校で実施している行事や教科が相互に関連し合っていることが明確になり、1年間の見通しをもちやすくなる。

② 地域素材をいかした実践を行うこと（上記C・D・Eに関わって）

3・4年生の総合的な学習で実施した学校の周りにある自然に親しむ活動では、初めて取り組む3年生は新たな活動として意欲的に学習し、4年生は昨年度の学びを生かして3年生にアドバイスを送るなどの活躍ができていた。このような異学年間での学び合う姿が他者を思いやる心の育成につながっていく。

③ 保護者・地域と連携して活動すること（上記B・Dに関わって）

P T A主催のリサイクルバザーの出店に児童が関わることで、児童のコミュニケーション能力の向上などの効果が見られた。また、児童を指導する保護者や、お客さんとして関わる地域の方々とも交流を深めることができた。この活動を通して、経営の模擬体験ができ、自立心、責任感の醸成に効果が見られた。

(4) 成果と課題

教員意識の改革と、より効果的な教育活動への変容を目指す方策について、研究を進めてきた結果、下記のような成果と課題が明らかになった。

① 成果

- ・身に付けさせたい事柄について、自校のカリキュラムを横断的に見渡すとともに、校内組織を十分に活用して推進させること。
- ・地域の素材、人材を十分に活用するための、地域との連携を意識した学校経営が大切であること。
- ・関係機関との協力、共同、活用など、連携を図ること。
- ・校長として、児童の「豊かな人間性を育むため」に、教職員の人権感覚を磨くために、「気付き」を増やす支援と助言、指導、示唆をしていくこと。

② 課題

- ・6年間の縦のカリキュラムと、教科等横断的にみる視点で教育活動をつなげる工夫が必要であること。
- ・人権教育や道德教育などを意識した学校の雰囲気づくりを進めていくこと。例えば、職員が児童に差別や人権に配慮した言葉遣いや、L G B Tへの配慮や男女混合名簿の導入などの、学校運営にまで広げた人権意識をもつことや、研修の実施で適切な指導ができる教職員を育てていく等の「教育環境の整備」が必要であること。

3 研究討議

本分科会の研究討議では、2本の討議の柱にそってグループ討議を行った。

【討議の柱1】

よりよい社会を創る人権教育の推進に関わって

- 子どもたちが互いに認め合い、豊かな人間関係を高めていける学校づくりに向けて、校長としてどのように関わっていくか。

- ・異学年交流（縦割り班活動）学年を超えた触れ合いで「他者を思いやる」気持ちの育成につながる。
- ・地域の教育素材を生かした活動では地域とのつながり、講師の方への感謝の気持ちなどが人権教育につながる。
- ・行った教育活動に対し、校長として評価を記録として積み重ね、よりよいものにすることが大切である。
- ・学校の立地条件によって制約はあるが、その学校でしかできない活動を積み重ねていくことが必要である。
- ・校長として職員や子どもたちに活動のねらいをしつかりと共有させることや、教育活動の価値を発信していくことが大切である。



【討議の柱2】

豊かな心を育む道德教育の推進

- 豊かな心の育成に関わる教育理念を学校・家庭・地域で共有し、協働で創造する学校づくりに向けて、校長としてどのように関わっていくか

- ・道德の授業について、以前までと変わった点について保護者や地域に積極的に発信する必要がある。
- ・学校の理念を発信して理解を得る。学校からの情報発信で地域・親を巻き込んだ教育活動が進めやすくなる。
- ・地域と学校との関わりが希薄になりがちな都市部の学校では子どもたちを地域に参画させることも有効である。
- ・地域の産業や施設と連携した体験活動を進める。自然災害についても教材として、人・もののつながりや感謝の気持ちなども学ばせていく必要がある。
- ・校長は学校と地域をつなぐコーディネーター的役割を担っている面もあると考える。

Ⅲ ま と め

【討議の柱1にかかわって】

〔成 果〕

【経営ビジョンと課題の明確化】

- ・校長自身が人権教育についての子どもや学校、地域の実態を把握し、現状を再認識することが、豊かな人間性を育成する学校経営のビジョンの策定に結びつく。
- ・人権尊重の精神を基盤とした学校づくりで、地域とのつながりを意識する等のビジョンを明確化することが、教職員の共通理解、実践へとつながっていた。
- ・活動の評価とリフレクションを大切に、職員や子どもに価値付けしていきたい。

【組織マネジメント】

- ・「チーム学校」として人権教育を推進する校内の組織体制を整え、人権教育の目標を具現化するための計画的な経営をする。
- ・教職員に全体計画や指導計画の見直し・作成に参加させることで参画意識の向上につなげることができる。

〔課 題〕

【経営ビジョンの校内外への浸透】

- ・ビジョンについてグランド・デザインやロードマップ等で取組を分かりやすく示したり、課題を重点化、可視化したりして教職員や家庭・地域と意識や取組の方向性を共有していくことが重要である。
- ・学校間連携では、異校種との連携を促進し、長いスパンの見通しの中で、子どもに豊かな人間性を育む教育課程を編成・実施することが重要である。

【討議の柱2にかかわって】

〔成 果〕

【経営ビジョンと課題の明確化】

- ・学習指導要領の趣旨や学校の実態を踏まえ、「特別の教科道徳」が「考える道徳」「議論する道徳」への転換を意識化させることが重要である。
- ・学校の実態に合わせて、豊かな心を育むことに関した重点目標を設定すると共に、取組の目安を示したり目指す授業像・子ども像を共有したりすることが有効である。

【カリキュラム・マネジメント】

- ・「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を通して、道徳教育は全ての学校教育活動と関連させ効果的に取り組ませる仕掛けが大切である。
- ・教科横断的な指導を実現する教育課程を編成・実施するために、同じベクトルで道徳教育推進教師を中心に道徳教育のカリキュラム・マネジメントを推進し、全体計画の活用に全校で取り組むことができた。

【家庭・地域との連携、協働】

- ・地域素材でもある校内外の人的・物的な資源を活用できるよう啓発に努め、家庭・地域等との連携・協働体制の下で道徳教育を推進することが、規範意識や自尊感情を高め、夢や希望をもってよりよく生きることのできる力を育む教育活動につながる。

〔課 題〕

【豊かな心を育む教育の充実】

- ・学校や地域の特色を生かした教育内容の質の向上のために、教育実践の進捗状況をショートスパンで評価・分析し、改善を積み重ねることが重要である。
- ・上記のためには、推進体制を充実するための組織マネジメントと、一人一人の参画意識の高揚を図るためのスタッフ・マネジメントを行うことが重要である。
- ・保護者・地域と情報を共有し合いながら、校内外の目で多角的・多面的に子どもの成長を見取ることが大切である。

〔おわりに〕

豊かな人間性を育む教育を推進するためには、教育目標の重点に位置付けたり、目指す子ども像を示したりしながら、チーム学校として目指すゴールの見える化をしていきたい。そして家庭・地域との連携を大切にしながら、学校が地域の学びや子育ての核となることが重要であることが実感できた分科会であった。

「第5分科会に参加して」

羅臼町立春松小学校 植 島 博 幸

はじめに中標津町立中標津小学校の河原宣孝校長先生から、「豊かな人間性を育む教育課程の編成と校長のリーダーシップ」と題して根室地区の実践発表がありました。一年間の教育活動を俯瞰し、行事や各教科等に関連させた学級経営案作成による意図的・計画的な指導、総合的な学習の時間における地域素材のダイナミックな活用や、保護者・地域と協働して開催するキッズバザー等、自然や他者との触れ合いを通して豊かな人間性を育む事例が紹介されました。目指す資質・能力を育むために、カリキュラムを教科等横断的に見渡すとともに、校長として校内組織を機能させる学校経営力を高める必要があるという提言がなされました。

グループ討議は「人権教育」「道徳教育」を柱として行い、討議内容をキーワードにまとめて交流し、「共有」「同じベクトル」「つながり」「かわり」「コーディネート」「発信」等、校長の役割に直結する言葉が挙げられました。自校の教育活動を見つめ直し、各教科等をどのようにつなげるか、また保護者や地域、関係機関等と学校をどうつなぐのか、その視点と展望、調整力をより一層磨く必要性を感じる討議となりました。

全道各地の校長先生の実践を伺い、今後の学校経営のヒントをいただきました。ありがとうございました。